

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域協力・連携を通じて、生徒一人ひとりの成長と自立を支援し、たくましく生きる人間を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識や人権意識を育み、社会的に自立・貢献できる品格ある人間を育てる。
- 3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。

2 中期的目標

1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路保障のさらなる充実を図る

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。

ア ICT 機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす
・「学校経営推進費」の支援により設置したアクティブラーニンググループ等を活用し、「発信能力（話す・書く）の育成」に取り組む。

イ 公開授業、研究授業、授業アット等を通じて、授業改善、授業力の向上に取り組む。

教員相互の授業見学等を日常的に実施し授業のコツ、ノウハウ等の共有を図る。

※授業アンケートにおける授業満足度を 80%以上を維持する。

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3年間を見通し、1年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 補習・講習を充実させ、生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を平成 31 年度には 85%とする。

※生徒の進路達成満足度を平成 31 年度には 85%とする。

(3) 本校普通科の 4 つの類型のそれぞれの特色を踏まえ教育内容の精選・充実を図る。また、本校国際教養科の 2 つの類型のそれぞれの特色を踏まえ教育内容の精選・充実を図る。

2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立・貢献できる品格ある人間を育てる。

(1) 生徒の肉体的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年・生指部の連携を強化し、学校全体で指導・支援体制の充実を図る。

・学年間の連携を密にすることにより、学校全体で同じ基準ですべての生徒に対応できる体制をつくる。

イ 遅刻指導、挨拶や礼儀の指導を全教職員が継続して取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生徒指導体制に対する満足度を平成 31 年度には 75%とする。

ウ 生徒会活動、学校行事、部活動等に積極的に係わる、たくましい生徒を育てる。

特に行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。また部活動の退部率を減少させる。

※生徒向けアンケートにおける行事満足度を平成 31 年度には 87%以上とする。

(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。

ア 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を平成 31 年度には 60%とする。

(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実

ア 情報ネット社会における人権侵害やいじめなどについて学び、人権感覚、実践力を高める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を平成 31 年度には 80%とする

3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。

(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。。

ア 少人数展開を行い、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施することにより、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践する。

ICT 機器等を活用し 4 技能をバランスよく伸ばす。英検・GTEC 等の試験を積極的に活用する。

姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。

イ 「学校経営推進費」の支援により外部英語関連会社と連携した「英語講座」を開設し、特に生徒の発信能力の育成に取り組む。

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）（ユネスコスクールの取組を含む）の充実・発展に取り組む

ア 国際部が中心となって校内における国際教育、ESD の企画・立案を行い、本校の国際教育のレベルアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する満足度を 90%以上を維持する。

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信

(1) 機動的な学校組織運営の確立、迅速な情報共有、若手教員を中心とした人材育成に取り組む、

(3) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(4) ホームページ・メルマガ等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を平成 31 年度 80%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒の生徒指導体制への共感度が 42.3%。学校として足並みをそろえて指導できていないことへの不満が反映されたと考える。今後の指導方針等の整理が必要である。</p> <p>○清掃に関しては、「積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が 62%(H28 39%)に大幅に上昇した。今年 1 年間、保健部を中心に学校全体で清掃の徹底に力を入れた結果だと思ふ。引き続き徹底していきたい。</p> <p>○学校から保護者に対する情報が十分いきわたっていない面がある。メルマガ・HP の充実等を図り、タイムリーに情報が伝わるよう工夫をしていく。</p>	<p>(第 1 回学校協議会) ○企業でも朝全員で清掃の意義は「気づき」にある。清掃の取組での「気づき」が社会に出たとき仕事の改善につながるのではないかと。河内長野市内の小・中学校については各学校の授業スタンダードの実践を通して集団作りと授業改善が進んだ。長野高校でも参考にしていだければと思う。</p> <p>(第 2 回学校協議会) ○(学校行事の取組に関しては) 子供間のつながりは中学でも弱い。自分の興味あるような内容には取り組む。縦の学年のつながりをうまく使って生徒の興味につなげていくという方法もある。</p> <p>(第 3 回学校協議会) ○生徒指導が うまくいかなかったという報告があったが、次の飛躍につながる兆しがあるので、粘り強く来年度に向けて取組を継続していただきたい。</p>

府立長野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路指導のさらなる充実	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして学校全体で授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 学校全体で、講習・補習体制を充実させる等「学習する体制」を整えることにより生徒一人ひとりの学習支援、進路実現を支援を行う。</p> <p>(3) 普通科の4類型および国際教養科の2類型の充実を図る。</p>	<p>ア 学校経営推進費支援により設置したアクティブラーニングルームを活用する等「ICTを活用した授業」「アクティブラーニング」等指導法を工夫し「主体的対話的で深い学び」となる授業をめざす。</p> <p>イ 本校の「授業スタンダード」を作成する。</p> <p>ウ 「授業のあり方研究会」を中心に相互授業見学及び研究授業を計画的に実施し教科を越えて情報交換を密に行う。</p> <p>エ 首席・指導教諭を中心に、学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。</p> <p>・1年生から進学希望生徒対象の「勉強会」を計画的に実施する。・講習・補習を学年ごとに計画実施する。</p> <p>オ 特にH30年度から始まる「国際教養科」の2類型の教育内容を具体化させる。国際教養科の2つの類型のシラバスの策定等準備を万全にする。</p>	<p>ア、イ 授業アンケートの満足度を80%以上とする。(H28 80%)</p> <p>・「ICT活用満足度」を91%以上とする。(H28 91%)</p> <p>ウ 6月及び11月を中心に相互授業見学を実施し校内研究授業を年間10回は実施する。</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を75%以上とする。(H28 75%)</p> <p>オ H30年度当初に、滞りなく教育活動がおこなえる状態となる。</p>	<p>ア、イ 授業アンケート結果満足度 81%(○)</p> <p>ICT機器活用満足度 87%(△)・・ICT機器の活用はかなり進んできているが、今後はさらに効果的な活用方法を研究したい。</p> <p>ウ 校内研究授業 年間17回実施(◎)</p> <p>授業見学述べ総数もアップした。授業見学により学びがあった。(100%)(◎) 次年度も継続していきたい。</p> <p>エ 学年別学習会を実施した結果、「講習・補習が充実して授業以外にも学習機会が設定されている」73%(○)(H28 70%)</p> <p>・進路指導・支援体制の満足度73%(△)・・カリキュラムの変更に伴い、生徒の戸惑いがあったと思われる。丁寧な説明をしていきたい。</p> <p>オ 国際教養科の2類型「英語」「国際」について新規設定科目に関してシラバス等具体化することができた。(◎)</p>
2 規範意識、人権意識を育み、自立できる人間の育成	<p>(1) 生徒の肉体的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実</p>	<p>ア 学年間・生指部の連携を強化し、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。引き続き遅刻指導に重点的に取り組む。服装・ピアス指導も継続する。</p> <p>イ 清掃を徹底する。</p> <p>ウ 体育祭・文化祭等各行事のマニュアル化およびさらなる活性化を図る。</p> <p>エ 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。教育相談連絡会を毎月開催する。必要に応じて教員研修会を開く。</p> <p>オ さまざまな人権侵害やいじめなど最新の状況について教職員、生徒がともに学び、人権感覚を高める。特に生徒向け研修の内容を工夫・充実させる。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を75%以上とする。(H28 73%)</p> <p>・年間の遅刻者数を10%減少させる</p> <p>イ 学校教育自己診断における「清掃がゆきとどいている」70%とする。</p> <p>ウ 行事の満足度を85%以上とする。</p> <p>エ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を55%以上とする。(H28 55%)</p> <p>オ 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を75%以上とする。(H28 72%)</p>	<p>ア 生徒指導に関して、年々厳しく指導をしており学校全体としても落ち着いてきている。しかし一方で生徒の意識ができていない現状があると思われる。生徒指導・支援体制満足度 64%(△)</p> <p>イ 清掃に関して、「積極的に清掃に取り組んでいる」と答えた生徒 62%(H28 39%)(○)</p> <p>ウ 行事の満足度 体育祭 90% 文化祭 84%(○)</p> <p>エ 教育相談体制・支援体制の満足度に関して</p> <p>・気軽に相談できる先生がいる 62%(◎)</p> <p>・先生はいじめなど困っていることについて真剣に対応してくれる (70%)(◎)(H28 65%)</p> <p>オ 人権教育に関する満足度 70%(△)</p> <p>人権教育に関する指導については時間を確保しさらに充実していきたい。</p>
3 英語教育、国際教育のさらなる充実	<p>(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2) 国際教育(ユネスコスクールの取組を含む)、ESD(持続発展教育)の充実・発展に取り組む</p>	<p>ア 昨年度リニューアルしたカリキュラムをさらに具体化し実効性のあるものとする。シラバスの策定等準備を万全にする。</p> <p>イ 姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。</p> <p>ウ 「学校経営推進費」支援により、「英語講座」を開設し特に発信能力を育成する。もって、英検の準2級以上の合格者数増をめざす。</p> <p>エ G-TECを全学年に導入し、4技能をバランスよく伸ばすための指標とする。全学年G-TECの実施をスムーズにおこなえるよう体制を整える。</p> <p>オ 国際部が中心となって校内における国際教育、ESDの企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。ユネスコスクールとしての取組を企画実施する。</p>	<p>ア H30年度当初滞りなく教育活動が実施できる状態となる。</p> <p>イ 海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ等各行事の参加者の満足度を90%以上とする。</p> <p>ウ 英検準2級合格者数 60名以上(H28 57名)</p> <p>英検2級合格者数 30名以上(H28 27名)</p> <p>エ G-TECスコア500点達成率 10%とする。</p> <p>オ 生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する満足度を90%とする。(H28 90%)</p>	<p>ア H30年度に向けて新カリキュラムを実施しているよう万全の準備を整えた。(◎)</p> <p>イ 海外語学研修・イングリッシュキャンプ等の満足度 90%(○) 例年の通り、参加生徒の満足度は高い。</p> <p>ウ 英検準2級合格者数 79名(◎)</p> <p>英検2級合格者数 11名(△)</p> <p>エ 本年度より英検に加えてG-TECを1、2年生全員に実施した。</p> <p>G-TECスコア500点達成率 7%(△)</p> <p>オ 本年度は、1月にフィリピン及びデンマークとの交流会を実施したため、12月の自己診断結果には反映されていない。11月ごろまでに実施しておれば、満足度は例年並みにはなったと思われる。(82%)(○)</p>
4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信	<p>(1) 学校の組織的運営の確立、迅速な情報共有・若手教員を中心とした人材育成に取り組む。</p> <p>(2) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>(3) 広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>ア 学校の課題解決に向け、適宜必要となるチームを立ち上げスピーディーに対応する。(EX授業のあり方研究会)</p> <p>イ 教員間の情報交換会を定期的に開催する。</p> <p>ウ 首席・指導教諭が中心となって若手教員の実践的な研修を継続実施し、人材育成に努める。</p> <p>エ 学校、学年また各教科、クラブ単位で地域の市役所、保育所、小中学校・福祉施設等地域との連携行事を積極的に企画実施する。</p> <p>オ 学校ホームページのさらなる充実、保護者携帯へのメール送信の充実。また学校ニューズレター等の発行など地域への広報活動をより積極的に行う。広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。</p>	<p>ア 「授業のあり方研究チーム」においては、校内研究授業がシステム化されたことをもって達成とする。</p> <p>・「ICT推進チーム」においては、校内の進路データの処理がスムーズに行えたことをもって達成とする。</p> <p>イ 教員の「情報共有・連携」満足度 60%とする。</p> <p>ウ 「共育研修」を定期的に実施する。生徒対応等で緊急に必要な知識理解についてはその都度研修会開催(H28 6回実施)</p> <p>エ 参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度を80%以上とする。(H28 80%)</p> <p>オ 保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を75%以上とする。(H28 75%)</p>	<p>ア 校内研究授業はすべての教科を含み合計17回実施。教員の授業見学総数も増加した。「授業を見学したことがプラスになった」と答えた教員 100%(◎)</p> <p>・進路データの処理に関してはスムーズに実施できている。(○)</p> <p>イ 教員の問題事象等の「情報共有・連携」満足度 70%(○) 分掌及び学年間の情報共有については十分できていない。今後の課題である。</p> <p>ウ 「アクティブラーニング型」全体研修会を4回、初任者対象研修会2回実施。AL型教員研修会ではグループごとに議論をし、全体の場で意見発表をする形をとった。来年度実施の計画が固まった。(○)</p> <p>エ ダンス部・吹奏楽部・フォークソング部・和太鼓部等を中心に地域のお祭り等へ参加をし活躍した。満足度 90%(○)</p> <p>オ ホームページの更新回数は増加したが、今後はメルマガの保護者向け発信を頻繁に届けるようにする。保護者満足度 60%(△)</p>